

# 鶴見大学・鶴見大学短期大学部放射能汚染測定

測定日	平成23年10月12日	
測定場所	鶴見大学・鶴見大学短期大学部	
測定機関	鶴見大学歯学部RI研究センター	
放射線測定器	空間放射線量率	GMサーベイメーター
	放射性セシウムの濃度	COBRA AUTO-GAMMA
測定方法	空間放射線量率	対象物から2cm以内の位置で測定
	放射性セシウムの濃度	測定時間:10分間

## < 測定結果と対応 >

測定場所	測定結果		対応	
	空間放射線量率 ( $\mu$ Sv/h)	放射性セシウムの濃度 (Bq/Kg)	対応	対応後の空間放射線量率 ( $\mu$ Sv/h)
1 (6号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
2 (6号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
3 (5号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
4 (5号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
4A (5号館前)	0.5 (排水ピット内の土表面)	13005	放置(人が立入る恐れはない)	蓋位置でバックグラウンド
5 (図書館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
6 (図書館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
7 (4号館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
8 (1号館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
9 (記念館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
10 (2号館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
10A (3号館屋上)	0.2 (排水口)	試料採取不可	放置(人が立入る恐れはない)	30cm位置でバックグラウンド
11 (3号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
11A (3号館前)	0.5 (花壇前の堆積物)	12029	除染	バックグラウンド
12 (記念号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
13 (記念号館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
14 (病院屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
15 (病院屋上)	0.1 (排水口)	試料採取不可	放置(人が立入る恐れはない)	バックグラウンド
16 (2号館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
17 (2号館1F前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
18 (大会館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
19 (大会館前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
20 (ピオトープ)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
21 (ピオトープ)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
22 (2号館屋上)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
23 (駐車場)	0.1 (アスファルト)	試料採取不可	放置(対応不可、再測定)	バックグラウンド
24 (RI棟前)	0.1 (鉄板)	試料採取不可	放置(対応不可、再測定)	バックグラウンド
25 (2号館2F前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
26 (病院前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド
27 (病院前)	増加なし	—	不要	バックグラウンド

バックグラウンド: 福島原子力発電所の爆発事故以前の自然放射線による空間放射線量を意味する。

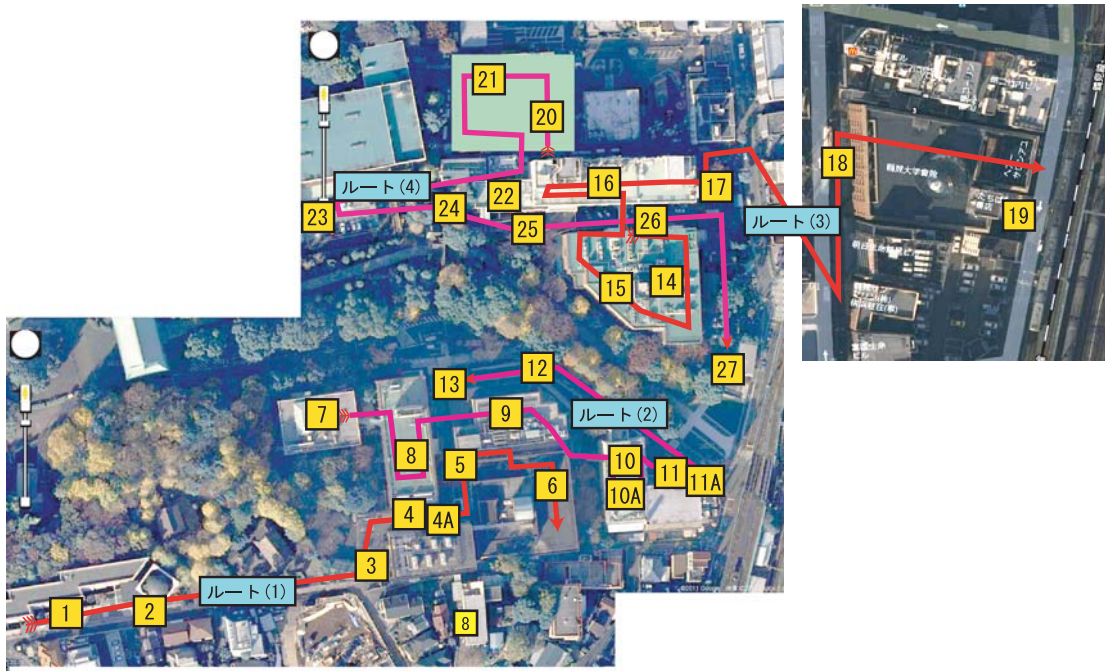
### 空間放射線量率の測定結果について

- 1) 空間放射線量率については、福島原発事故前の空間放射線量率(自然放射線)に対して増加した量を記載している。
- 2) 「増加なし」は、事故前と同じ空間放射線量率であることを意味している。
- 3) 対応後の空間放射線量率は、平成24年1月20日に再測定した結果を示している。

### 放射性物質の濃度測定について

- 1) 空間放射線量率が 0.2( $\mu$ Sv/h)以上増加し、かつ試料採取が可能な場所について放射性物質の濃度を求めた。
- 2) 放射性ヨウ素については、放射性物質の横浜方面への飛散は、3月20、21、22、23日に確認されているが、それ以後殆ど検出されていない事、福島原発事故後7ヶ月経過して約1000万分の1に減衰していることから、放射性物質の濃度については放射性セシウムについてのみ算出した。

## 放射能汚染調査経路



## 放射線測定器



空間放射線量測定器



$\gamma$ 線・ $\beta$ 線測定装置

## 空間放射線量測定



## 除染と除染後の空間放射線量率



注：福島第一原子力発電所の爆発事故以前の自然放射線による空間放射線量率は、本測定で使用したGM管式サーベイメーターでは $0.3 \mu\text{Sv/h}$ を示します。つまり、 $0.3 \mu\text{Sv/h}$ は事故前の放射線量率になった事を意味しています。